



焼津が小泉八雲（ラファディオ・ハーン）と深い関わりを持つ街だという事をご存知ですか？それを広めながら八雲についてもより深く知ってもらおう、という催しを“県民の日おもてなし体験イベント”として『やいづ観光案内人の会』が開催しました。



[分かりやすい解説を提供下さった那須野学芸員](#)

8月17日、会場の焼津公民館大会議室には募集定員を上回る40人ほどの人たちが市内外から集まり、テーブルに分かれて席に着きました。

第一部では、焼津小泉八雲記念館学芸員的那須野絢子さんが、八雲の複雑な生い立ちや、ジャーナリスト・翻訳家・作家・教育者・民俗学者等々多岐にわたっていた仕事について、そして焼津と関わることになったきっかけや、焼津を愛して毎年滞在し、心のふるさとの様な存在になっていた理由など、研究から得られた八雲の姿を分かりやすく解説されました。

16歳で左目を失明し、右目も強い近眼により「音」から敏感に受け取るものが多かった八雲が、ふるさとギリシャに似た荒々しい焼津の海を好んだこと。絶対に裏切らないと思える人との出会いや、猜疑心の強い性格でありながら、開けっ放しな素朴さを持つ焼津の人々に心を許していた様子などを著書から引用。小泉八雲という人物に、より近付き興味が湧き立つ、あっという間の一時間でした。



[八雲ゆかりのお菓子](#)



[八雲の好んだ珈琲](#)

休憩時にはクレオール研究者でもあった八雲ゆかりのお菓子や、好んで飲んでいとされる珈琲が振る舞われ、風味豊かなその味を楽しみながら、テーブルごとに八雲への想いや滞在していた家が明治村へ移築されてしまった事への残念さなど、話題賑やかに盛り上がりました。



[大石みつえさんによる朗演「雪女」](#)

第二部は「朗演エトピリカ」に所属する大石みつえさんによる朗演。台本を見ずに身振り手振りを交えて作品を語る手法で、八雲作品「雪女」が演じられました。淀むことなく物語の世界へ引き込んでいく語り口にすっかり魅了されると共に、マイクなしでも良く通る明瞭な声と、私などより先輩になる大石さんの記憶力のすごさに只々感服！ひたすらの練習の積み重ねで、何作品もの公演をあちこちで続けられているそうです。

八雲コースを案内依頼のお客様には、希望すれば可能な限り八雲記念館で披露して下さるそうです。



最後にグループごとに出た感想を、各テーブルの代表者が発表しました。小泉八雲愛や焼津愛、大石さんや那須野学芸員への称賛の声が多々上がり、八雲を通じた地域活性化を積極的に、という声も多く出ました。



[やいづ観光案内人の会会長 金井富保さん](#)

『やいづ観光案内人の会』は、焼津市観光協会が2年間開催した観光ボランティア養成講座を終了する際、「このまま終わってしまうのはもったいない」という思いの有志28人が立ち上げ、結成して3年。現在大学生から84歳まで32名が登録しています。会員は「花沢の里」「浜通り」「小泉八雲ゆかりの地」の各コースに毎月2回ほどある研修会に参加し、案内の為の研鑽を積みます。

今回の参加者には、地元の事を学びたいから入会したいという若者もあり、シニアから若い世代へと地元の良さを伝える場としても有意義な活動になっています。

案内は依頼に合わせて他の要望にも応えるそうで、そんな時は大御所の皆さんの腕の見せ所！  
依頼されるのは観光案内だけでなく、公民館への出前講座や、小学校の地域を知る学習の講師なども。来年には、大津からの中学生が修学旅行で立ち寄る際の案内も頼まれているそうです。

この観光案内をご希望の方は、やいづ観光案内人の会事務局〈(一社)焼津市観光協会内〉までお申込み下さい。お申込み・お問い合わせはこちらまでお願いいたします。

TEL: 054-626-6266

FAX: 054-626-6267

Mail: kankou@yaizu.gr.jp

HP: <http://www.yaizu.gr.jp/enjoy/detail.asp?sid=250>

志太榛北地区担当特派員 増田昌江

[関連リンク](#)

ツイートする